

(令和6年9月11日 午後2時25分 開始)

○議員（田中 宏政君） まずは、宮崎町長におかれましては、真夏の選挙戦で大変お疲れさまでした。そして、御当選おめでとうございます。

その選挙戦において、ある新聞に議員7名の写真が載っており、その新聞を宮崎町長の陣営の方が持って選挙活動をされていました。その新聞というのはTRCの請願の記事でしたが、その新聞の記事で、ある議員が請願団体に対し、圧力をかけ怒鳴り込んだとのが載っておりました。恐らく、そのことは私のことかなと思います。そのことは全く事実ではなく、事実がねじ曲げられています。青天のへきれき、寝耳に水、ある知事の言葉を使えば、うそ八百であります。このことは私の名誉を著しく毀損しました。このことを行った方を、私は最大限の厳しい言葉で非難します。

それでは、通告書に基づき、質問をさせていただきます。

まず、町政運営方針におきまして、人口減少、少子高齢化についての中で、定住促進を進めていくということですが、同僚議員の方が何人も同じ質問をされたと思うんですけども、重複しないような形で質問させていただきたいと思いますが、どのような形で定住促進を進めていくのか、具体的な施策をお願いします。施策とその進め方、プロモーション、インフォメーションに関しても含め伺いいたします。

あとの質問は、質問席から伺います。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

私が選挙期間中、人口減少、少子高齢化等について、定住促進を図るということで町民の皆様に訴えてまいりました。今までたくさんの御質問をいただきましたので、中でも福祉についてお答えしたいと思います。

私が考えた定住の中には、仕事・住居・福祉という、この3つの柱があります。

福祉については、逆に私の勉強不足ということもありました。町長に就任してから、福祉課のほうに確認に参りました。私が一番取り組まなくちゃいけないと思ったのが、出産から、生まれた子供たちに対する支援、また、御両親の都合で子供を預からなくちゃいけないという状況が生まれたときに、ぜひ川南町で取り組むべきじゃないかなと。それと、子供さんの病気等について、御両親は仕事等もあると仮定しますが、御両親で見れないときに町が承って見れないかという、このことを第一に選挙公約で進めてまいりました。

先ほど言いました、担当課に行ったときに、今私が言ったことは、川南町は県内でも子育て支援については一番進んでいる。子供支援センター内で、御両親の事情で病気などのお子様を預かる制度もできていました。実際に私が望んだことが、川南町では、もう実行されている。

ただ、そのことが、私も自分で確認しようとしなかったのも悪いと思うんですけど、しっかりと取り組んでいる事業に対して、町民の皆様、町外の皆様に対して周知等が不足しているということに感じました。担当課のほうにも、また総務課のほうにも、今、子育て支援、それから先ほど言いました病気のお子様をお預かりする制度、恐らくなんですけど、これは、多分県内でも全国でも有数じゃないかな、そうないんじゃないかなと思っています。そのことをしっかりと、川南町のホームページ等で検索したらトップページに、そこをクリックすれば、すぐそこというような情報が提供できないかということをお願いをいたしました。そのことについては、総務課の情報担当も含めて前向きに取り組んでいます。もしかしたら、もうできているんじゃないかなという気がしておりますけど、一番は選挙公約で掲げた私の思いが、川南町にしっかりとマッチングしていたと、これはもう私の勉強不足です。ここについては、おわびを申し上げたいと思っています。

国も、今現在、少子化対策について取り組むことがうたわれています。出産の支援、そして3歳児までのお子様には、皆保育、全員の方が保育を受けられる、そういった方針を示されています。このことについては、しっかりと国の動きを見極めながら、恐らく2年後じゃなかったかなと思うんですが、国の動きを見ながら、しっかりと充実した対策を進めてまいりたいと思います。

それから、働く環境も整える必要があります。川南町の人口が減るという現象が、いつ生まれるのかということに考えたときに、高校生が大学等に進学、また、高校生が就職等になったときに人口が出ていく、そういった現象じゃないかなということを考えています。ぜひ、そういった子供さんたちを、これは児玉議員もおっしゃいました。しっかりと子供さんが働く環境を整え、これは各町内の事業者、また大手でいけば児湯食鳥、サンAジュース、チキンフーズ、またそれぞれの事業者、建設等もあります。そういった方々との協議をしっかりと進めて、働く場を、環境を整えていきたいと思っています。

それから、誘致企業については、今現在、工業団地に空き地がないというのが現状です。このことは、しっかりと将来見つめて対策を打っていかなくちゃいけないかなと思いますが、今現在、私が誘致企業というのを考えているのは、現在ある町内の空き家、空き店舗を活用できるサテライトオフィスに取り組んでまいりたいと思います。このことは川南町産業推進課もしっかりその対策を今進めているところです。大きな施設、工場とかを考えなくて、今ある施設を活用していきたいと思っています。

それから、住居については、町営住宅の見直し、それと整備の策定を進めてまいります。町有地の貸出しなど民間資本の活用も進めてまいりたいと思います。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 定住促進した後の施策を今述べられたと大体思うんですけども、まず定住する、移住する、選んでもらえるような町というのをPRする必要性があると思うんですけども、そのプロモーションの仕方、また、その施策をお聞きしたい

と思うんですけれども。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

様々なプロモーション等を生かしていけばという御質問だったと思います。私も町長に赴任して、最初、一番やりたいと思ったのは川南町のPRです。様々な場所に出向き、私の思い、また川南町の現状、どういう町なのか、そういったことをしっかりとお伝えして、川南町の移住等についてお話をしていきたい。また、先ほど言いました誘致企業についても同じです。

私の仕事の優先順位というのは、多分そのことが上位に来ます。そのためには、川南町がすばらしい町だとお伝えできる、そのことが、私たちの力で一生懸命そこに全力を注いで、すばらしい町というのをアピールしていきたいと思います。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 今述べられたのですが、町長、どのような方法で、それを全国の移住希望者の方に伝えるのかというのをお聞きしたかったんですけども、よろしいでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

現在、川南町も移住促進のために様々な支援が講じられています。また、県外、関東とか、そういったところに町の職員の方々が行って、川南町にぜひ来ていただく、そういった場を、しっかりと私自身も参加していきたい。

また、川南町では、関東町人会、それから東海、大阪町人会が組織されています。ここの交流も密にやっていかなくちやいけないかなと思います。川南町出身の方々が、関東、中部、大阪、近畿、そういったところで生活なさっている方々については、非常に川南町のことを関心が高く思っていらっしゃいます。そういった場所も機会として捉えたいと思います。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 町長が考える川南町のストロングポイント、一番いいところというのを聞かせてください。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

川南町の一番いいところというのは、私は人間性、町民性と捉えています。商工会長を務めているときに、全国からたくさんの視察研修が来られました。その中で、来られた方々が政治家であったり、いろんな事業を地域で起こしている人であったり、様々な方がお越しになります。その中で、これは軽トラ市ですけどね、なぜ川南町はここまで継続できるんですかという質問が必ず来ます。そのときに私がお答えするのは、間違いなく町民性です。川南町は、様々な事業を起こすときに相当な議論があります。賛成、反対。でも、やると決めたら、みんな、反対意見を言った方々も協力するんです。これは私の経験の中で、その町民性が川南町の一番すばらしいところだと。

その次に、川南町は開拓の町。ですから、よそから来ていただいた方に対しては偏見

も持たなく、しっかりと交流の場もつくり接していただけますと、これほどいい町はありませんと、こういった言葉で川南町のよさを伝えさせていただきました。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） ストロングポイントというところは、私の求めていた部分に関しては農業というのをちょっと求めていたんですけど、商工会の元会長ということで、そちらのほう選ばれたということで、そちらもストロングポイントかと思います。

次の質問に行きます。

先ほども言われたんですけども、出産から幼少期の支援、子育て支援の充実というふうな方針であります。どのような施策で充実させるのか。充実させるということは、多方面から、1つだけじゃない施策で、多方面からの施策で充実させると思うんですけども、1つでもよろしいので、具体的な、具現化された政策のほうをお聞かせ願えるとと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

先ほど、福祉に関しては、私が想像していた以上にすばらしい対応が策定されていました。そのことに関しては、町外の行政の方々からも評価を得ている、また、視察にも来られている、そう確認しております。

ただ、移住、どうぞ川南町に来てくださいという方々に対しては、やはり先ほど言いました出産から子育て、この若い人たちに来ていただくということに関しては、一番判断材料になるのかな。ですから、しっかりと川南町、今現在でも川南町、出産に対しては、国民健康保険からだと思うんですが、50万の支援金が出ています。また、それぞれお子様に対しての支援等も組まれています。

ただ、それだけで、ほかのところから川南町に来てくださいということに対しては、横並びの政策では、まだ足りないんじゃないかな。ですから、先ほど言いました充実という言葉は、このことに対しては、しっかりと福祉課と協議の上、また、僕が望むことまで含めて、しっかりと対策を打っていきたいと思います。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 今のところは、まだ具体的な政策というのはないということでしょうか。分かりました。

先ほど、町営住宅の在り方ということで言われましたけども、同僚議員のほうも同じような質問をされたと思うんですけど、町営住宅の整備を進めるとありますが、町営住宅を建設するという考えなのか、リフォームするという考えなのか、どちらでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えしたいと思います。

私が一番感じたのは、もう50年以上たった町営住宅。私の身近なところでいえば、町営新茶屋住宅があります。ここには、これは確定じゃありませんが、多分私は10人に満たない、恐らく1桁の入居者じゃないかな。ほとんどの退去されたところは、耐用年数も過ぎていますし、そういったものも含めてベニヤで、次の入居者のことに対しては受

け入れない状況になっています。

ただ、これを何とか改善できないかということで、担当課にも相談しました。ただ、そこに一番大事な、そこに現在住んでいただいている方、その人たちの思い、また料金等については、ちょっと深く考えていかなくちやいけないのかな。新しいところをつくりました。でも距離が離れます、それと入居料金が上がりますということになれば、本来の求める姿とは、もしかしたらかけ離れていくのかな。

基本的には、整備ということも含めたら、先ほど町有地の民間活用ということもしゃべらせていただきました。そういった形で、もしかすれば、町営住宅を整備する中で分譲ということも考えられるのかな。すみません、自分の近くのことだけ言ってもしょうがないんですけど、今、住んでいらっしゃる方が10人満たない。であれば、10人の方々が住める場所を提供して、そしてそれ以外のところは、もしかすれば分譲なり、また、その土地を活用、借地等でもありだと思うんですね。そういった場所を提供することによって、新たな住宅環境というのも構築できるんじゃないかな。また、もしかすれば、事業者も活用ということに考えていただけるんじゃないかな。

そういう意味で、まず古い、もう入居者を制限しているところ、ここの整理、整備等を考えていきたいと思っています。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 補足があれば、建設課のほう。

○建設課長（黒木 誠一君） ただいま町営住宅について町長が申し上げましたとおり、今、古い町営住宅234戸は入居を中止しており、140戸ほどの空き家がございます。これらについては、町長が申し上げたとおり、移住を促進しようとしても、家賃が現在安くて、なかなか移転が進まない現状もございますが、今年度は移転した昭和住宅に限り、4戸のうち3戸を解体するということでやっております。このようにして、まとまった空き家が進めば、工事費を組んで解体して整地を進めていきたい考えでございます。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 町営住宅の在り方というのは、50年前と現在とでは相当変わってきていると思うんですけども、町営住宅にどのようなニーズがあって、どのような問題点、課題があるとお考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

新しい施設を造ることが、全て、そこに住んでいらっしゃる方々の満足を満たすかということに対しては、先ほど言いました、そこに今現在住んでいらっしゃる方々、また、その方々が新設ということになれば、やはり入居料も上がると思うんですね。そういったことも含めて、しっかりと、今いらっしゃる方々の思い等も含めて、担当課と協議しながら前に進めるべきじゃないかなと思っています。

川南町で町民の方から聞いたことは、川南町に働いている、でも住むところがない。だから今、高鍋に住んでいます。こういう方が結構多いんですよね、私の知っている限

り。そういうことを考えると、やはり町営、また企業等がしっかりと住宅環境を築いていく。町営にしては、やはり所得のニーズ等について、しっかりと対策を考えていかなくちやいけないかなと、そのように思っています。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 今後、町営住宅に関しては、高齢者向けの町営住宅という必要性、高齢者向けのバリアフリーな介護という部分を考えて住宅が必要になってくると思われますが、これに対してどのようなお考えでありますか。また、今のパーセンテージ、割合に関して、どのくらい介護向けの町営住宅があるのかというのをお聞きしたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 高齢者、介護者については、大変申し訳ありません、私として、今現在、情報を得ていません。そういった方々のためにも、新しい施設、最近新しくできた町営住宅に対しても、1階部分にはそういった方々を受け入れるスペースも考えられています。

当然、田中議員がおっしゃったことは最優先にも位置づけられると思いますので、そういったことも含めて検討してまいります。

以上です。

○建設課長（黒木 誠一君） 町営住宅の建設のバリアフリー化についてお答えいたします。

平成14年から、公営住宅建設についてはバリアフリー化が必ず義務づけられており、エレベーター等についても設置義務がございますので、今現在で言いますと、ひばりが丘住宅の3階建てと、さくらが丘住宅の3階については、完全バリアフリー化が図られているところでございます。507棟が全戸ですので、そのうちの48戸が完全バリアフリー化で、その他の住宅におきましても完全バリアフリー化ではないですけれども、バリアフリーにされているところはございます。完全バリアフリー化の率で言うと48戸ということです。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 次の質問に行きます。

働く環境を整えるとありますが、昨日の同僚議員の一般質問内で、空き店舗、先ほども町長が言われましたが、サテライトオフィスという考えを示されましたが、このサテライトオフィスにより、どのぐらいの雇用が生まれると思いますか。また、町の経済の起爆剤になり得ますか。積極的に取り組むのであれば、ある程度の規模の企業を誘致する必要があると思いますが、どうでしょうか。

○産業推進課長（河野 英樹君） 田中議員の御質問にお答えします。

先ほど町長が申し上げた既存の商店街の中の空き店舗であるとか、その他の地域の古い家で誰も住んでいらないような状況、もろもろ含めまして、現在、令和5年度、6年度におきまして、株式会社あわせという企業に入っていて、そのよ

うなサテライトオフィスで、よそから川南町のところに出張所みたいなイメージですね、そういうものを誘致したいというところで取り組んでいただいております。

一方で、川南町内の企業さんの課題、職員定着が悪いとか、もろもろの課題等がありますので、そのような掘り起こしなども含めて、その課題の解消もしつつ、課題があると、そこにビジネスチャンスがあるかもしれませんので、多様な視点で委託事業に取り組んでいただいて、本年度末をめどに、目標としては3社ほどのサテライトオフィスを誘致できればというふうに、現在、産業推進課中心となって取り組んでいるところでございます。

お答えになったか分かりませんが、以上でございます。

○議員（田中 宏政議員） どのくらいの規模、何名くらい、大体というのは分かりますでしょうか。

○産業推進課長（河野 英樹君） 大変失礼いたしました。

規模感で言いますと、目標がサテライトオフィス3社という、数字でいうとその規模感でございます。職員数が1社当たり1人なのか2人なのか、そういうところの目標は今のところないんですけども、できれば町外、それも県外など来ていただいて、単なるサテライトオフィスで終わるのではなくて、本当の支店とか本社機能などが、この後、来ていただけるように進めていければというふうに将来像は描いております。

以上でございます。

○議員（田中 宏政議員） 次の質問に行きます。

町内産業の推進・成長についての中から、基幹産業である農業、漁業を活性化、支援を充実とありますが、どのような施策なのか。何度も同じような質問をされていると思うんですけど、失礼ですが、具体的にお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

今現在でも、様々な国、県からの支援、補助と合わせて、川南町独自の支援策が講じられています。このことについては、やはり当事者、先ほど、農業という言葉がなかったと言われて、すみません、失礼しました。農業、漁業、それから商工業、観光業も含めて、そういった協議の場を、トップ会議と称しましたが、そういった場を設けて、具体的にどういったものを施策として生かすかというのは、その場で考えていきたいと思っております。

トップ会議の中には、必要に応じては、それぞれの事務局長等も参加する可能性もあります。今までトップ会談というものは、日高町長のときには開催されておりました。ただ、本当に会談です。具体的に話に入るといことはありませんでした。ですから、私は町内のそれぞれの産業の団体等との会話を進めて、しっかりと対策を打つ。今どのようなというのは、今現在実施されていることについては担当課が述べられると思いますが、今後、私のどういった考え方で、どういう対策を打つのかということに対しては、会議の中で慎重に進めていきたいということで、答弁としたいと思います。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 各団体とのトップ会議を行い、その中で協議したことを施策に生かしていくということなんですけども、このことも非常に大事なことだと思います。ですが、町長御自身の熱い思い、基幹産業である農業、漁業に対して、こうしたい、絶対こうするというコミットできること、何かないでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

農業、漁業、商工業、観光業、それぞれ様々な案件を抱えています。ただ、田中議員がおっしゃったように、基幹産業である農林水産業に対しては、できる限りの支援策を講じてまいりたいと思います。そして、農林水産業が活性化することによって、そこに従事していらっしゃる方々が利益が上がる、そういった仕組みをしっかりと講じていきたい。そのことが、今までいろんな御意見もありましたけど、後継者に対しても、それから実際に事業を行っている方々に対しても、そういった利益を上げる体質については全力を持って対応していきたいと思います。

それから、そのことが間違いなく、2次産業であり3次産業に必ず影響してくると、好循環を生むと思っていますので、田中議員がおっしゃったように、農林水産業に対しては、できる限りの対策を取っていきたいと思っています。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 選挙戦の中で、いろんな方から問題や意見、要望を聞かれたと思います。基幹産業である農業、水産業の方からも相当聞かれたと思うんですけども、その要望を聞かれたことに対して、町長が考える具体的な施策が全然出てこないの、ちょっとお聞きしたかったんですけども。こうしたい、絶対こうするんだという熱い思いをちょっと聞かせてもらいたかったんですけども、聞かせてもらえなかったの、ないということでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

先ほど、私が述べたことは、しっかりと前向きに対策を打っていくということです。
以上です。

○議員（田中 宏政議員） 次の質問に行きます。

次の防災・減災対策についてお聞きしたいと思っていましたんですけども、相当数の議員の方がこのことについて質問されていたので、私の考えた質問も言われましたので、ここに関しては省かせていただきます。

4つ目になるんですけども、次代を担う人づくり、人材育成・教育の充実についてお聞きします。

この中に、様々な分野で活躍をされた優れた講師をお招きし、とありますが、町長が、ぜひこの方に講師をお願いしたいと考える方がいらっしゃったらお聞きしたいと思うんですけども。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

私も、小学校、中学校、高校と、あまり勉強というものには積極的ではなかったと、あまり学ばなかったですね、もう遊びのほうが忙しくて。ただ、いろんな研修機関には積極的に参加させていただきました。経営者であったり、また小説家であったり、様々な分野で活躍されている方々のお話をお伺いさせていただきました。

その中で、私が一番感じたという中では、人として生きるために何が一番大切なのか。このお話は、稲盛和夫さんが「利他の心」というのをおっしゃっています。人のため、地域のため、社会のために行動すべきということをお話を伺いました。このことに対しては都城市が、多分もう4年ぐらい前になるんですかね、「京セラフィロソフィ」という思想があるんですね、そういったものを導入されました。職員がみんな勉強されて、それが原因かどうかというのはまた別だと思うんですけど、職員の考え方も変わったんじゃないかな。何かを成した人は、間違いなくすばらしい、根底に持っていらっしゃるんですね。そういった方々のお話をできれば皆さんにお聞かせしたいなと。今現在で誰という言葉は、本当に有名な方は3年先ぐらいまで予約が入っていますので、その方々については、ちょっとアクションを起こしていきたいと思います。身近な、表現が悪いんですけど、身近な方々をお招きしてそういったことを開催する。一番の目的は、やはり気づきであったり、人生の目標であったり、そういったことのチャンスをつくっていききたいなと、そう思っています。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 小中学生から若い世代に、こういう活動をしたいということなんですけども、小学校1年生と中学校3年生と、全く違うステージになってくると思うんですけども、それぞれのステージに合わせた講師というか講話を聞かせるという形になると思うんですけども、そういう考えでよろしいでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 私が考えている人材育成という中で、間違いなく小中学生も対象に入ります。このことについては、私も教育委員会のほう、教育長のほうに申し述べましたが、このことについては教育委員会にお任せしたいと思っています。それ以外の方々、若い人であったり、中間層であったり、それからある程度の年配の方々も含めた、そういった勉強の場を提供したいというふうに考えています。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 私からのお願いになるんですけども、要望、提案なんですけども、ぜひ命の授業というものに取り組んでもらいたいと思います。小中学生の子供たち、まずは若い世代にはしっかりと死生観を持って生きてほしいと思います。中高生や若い世代の方が自ら死を選ぶニュースを見たり聞いたりすると、非常に残念で悲しく、いたたまれない気持ちになります。

町長は、この命の授業に関し、どのように思われますか。教育長のほうにも聞かせていただきたいと思いますけども、まずは町長のほう、お願いします。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

私自身、命の大切さは非常に重要視しています。この世に生を受けたという方々に対しては、必ず何らかの生まれた価値観、価値観というか、絶対世の中が必要としているんですね。その中で、それぞれ個人差がありますよね。個人差があります。でも、それぞれの立場の方々が自分の思いで行動する、この必要性は大事だと思います。

まして、今おっしゃった命ということに対しては、私が研修を受けた中で、ある方が、自分がお母さんに書いた、小学校4年生です。お母さんに書いた手紙で、お母さんが自殺したと。この研修の中で、その方のお話を聞いて、お母さんもつらかったけど、その手紙を書いた御本人も非常につらかったんじゃないか、その人生をずっと小学校4年から60になるまで、ずっと背負い続けて生きた、その思いを聞いたときに苦しかったろうなど。ですから、自ら命を絶つということは、あってはならない。この世に生を受けたわけですから、できればお亡くなりになるまで、しっかりと自分の人生を歩んでもらいたい、そういう思いです。

あとは、また教育長が述べると思います。よろしくお願いします。

○教育長（長曾我部 敬一君） 田中議員の質問にお答えいたします。

今、命の大切さ、町長は言われたとおりだと思うんです。おぎゃあと生まれて死ぬまで、今、小中の児童生徒が1,192名いるわけなんですけど、その一人一人の資質、能力というのは計り知れないものがあると思うんです。おぎゃあと生まれて死ぬまで、生を受けた以上は、やはりそういう子供たちの能力、光るところ等々を発見しながら伸ばしていく。一人一人、本当に大切にすることっていう、そういう教育ということは今、例えば月一度、7校の校長先生の校長会があるわけなんですけれども、そこを対策監あるいは三好課長、教育課としてそこへ赴いて、そういうことを一人一人の子供たちを真剣と捉えて、まず学級担任の先生に、そういう思いを校長から伝えていくというところあたり、今そういう取組をしております。ちょっと急だったんで、まとまった話できないんですけど、お許してください。

以上でございます。

○議員（田中 宏政議員） 教育の充実というのは、非常に大事なことだと思います。教育の充実のために町長が考える具体的な施策、教育に関しては教育委員会のほうに委任せすと言われましたが、町長が考える、こうしてほしいという施策があればお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 田中議員の質問にお答えします。

教育に対する思いはということですが、先ほども言いました、私はこの世に生を受けた方々、それぞれ生を受けた理由があると思っています。ですから、勉強ができる子、また、勉強はできない子もいると思うんですね。またはスポーツにたけている子、たけていない子もいる。ただ、そのことで優劣をつけるべきじゃないと思っています。そのことは必ず、先ほど教育長もおっしゃいました、必ずその子供には可能性があると思うんです。

ですから、教育の立場でということであるなら、本来その子の持っているすばらしいところを伸ばしてほしい、また、その子も社会から求められている、社会に必要とされる、そういった気づいていただけるような教育が進められれば、僕はそれでいいんじゃないかなというふうに思っています。

以上です。

○議員（田中 宏政議員） 以上で質問を終わらせていただきます。

（ 午後 3 時 20 分 終了 ）